

町の生活情報紙

-IIDE PUBLIC RELATIONS-

広報いいいで

8

12, August

2009

Vol.989

Contents

洋上で「町の夢」を語り合う

いいで未来号出航

だれでも楽しめる音楽イベント

めざみの里カンタート

真夏に雪と夢を子どもたちへ

白川ダムSNOWえっくフェスティバル

消防団員完全燃焼

飯豊町消防操法大会

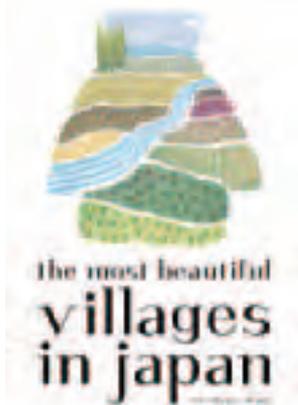
- 03 いいで未来号出航
いいで未来号を追う／洋上で語り合った町の夢・将来・幸せ／いいで未来号に参加して
- 07 めざみの里カンタート
だれでも楽しめるワケ／スペシャル・インタビュー
コラル・ド・めざみ全日本おかあさんコーラス全国大会へ
- 12 白川ダムSNOWえっぐフェスティバル
- 14 パティオ・クリサンタさん帰国前のインタビュー
二年間の飯豊町での生活を振り返る
- 16 町の話
鈴木栄吉さん／横澤典子さん／伊藤靖さん／第一小学校
／飯豊中エコキャップ・ボランティア／がんばりの軌跡
- 18 まちかどNEWS
国道113号手ノ子歩道整備事業・(主)長井飯豊道路改良事業説明会／食育講演会／飯豊町安心生活創造委員会ほか
- 20 直伝おふくろの味
- 21 子育てファイル／あ～す図書室情報
- 22 リレーエッセー校長室便り／随想町長の見て歩き
- 23 第三セクター決算報告
- 24 お知らせ／戸籍の窓／人の動き／編集後記
- 26 飯豊町消防操法大会 ～飯豊町消防団完全燃焼～
- 28 未来につなぐ～いいでの美しさをいつまでも～

町のホームページから

さらに情報を！

町からのお知らせや情報は、
飯豊町ホームページ www.town.iide.yamagata.jp
でも紹介しています。
知りたい情報は、「検索キーワード」を、ホームページの検索ボックスに打ち込んでください。当該ページへ簡単に移動することができます。

こちらのボックスに「検索キーワード」を打ち込んでください。



飯豊町は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。これからも美しい景観と里山文化に磨きをかけていきます。

表紙

今月の

親子



左から成那くん、香織さん、英人さん、鉄生くん

小白川在住

五十嵐英人さん(25歳)
香織さん(26歳)
鉄生くん(5歳)
成那くん(3歳)

7月下旬、五十嵐家の畑には、背丈以上もある大きなひまわりが満開です。鉄生くんと成那くんが、ばあちゃんと一緒に、保育園からもらった種をまいて育てたもの。英人さんと香織さんもまた、わが子がひまわりのように元気に育って欲しいと、愛情という水をたっぷり注いでいます。



2009
7.18
▼
7.20

3DAYS
ON THE SEA

いいで未来号出航。
洋上で語り合った町の夢・将来・幸せ



洋上で楽しく夢を語り合う「いいで未来号」は、本町の“にぎわい再現”に向けた事業の1つとして、7月18日から20日にかけて出航。目的は若者に飯豊町の夢と将来をとことん語り合ってもらうこと。遠く町を離れ、町のことを考え直すといろんな良さや夢が見えてくる。そして、それが新しいまちづくりのエネルギーになることを期待して。「いいで未来号」の3日間と語られた夢などを報告する。

針路は「町の夢」へ いいで未来号を追う。



No_1



No_2



No_3



No_4



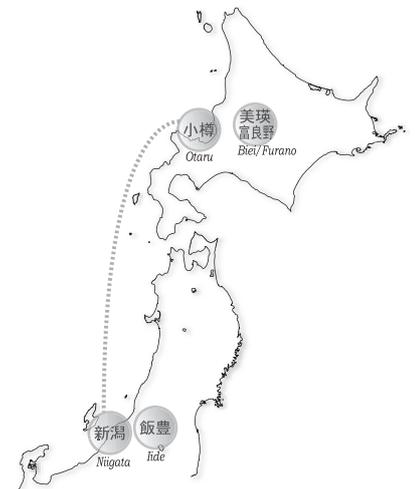
No_6



No_7



No_5



—photo—
 ① 7月18日午前6時、役場庁舎前に集合 ②同日午前10時、新潟港で乗船を待つ ③同日午後1時半、船内で「飯豊クイズ」に挑戦 ④19日午前8時半、雨のためバスの中から美瑛町を視察。写真は「赤麦を守る会」の松田将照会長 ⑤同日午後3時半、小樽市内を散策 ⑥小樽市内で夕食中。まちづくり談議は止まらない ⑦20日午後3時、帰りのフェリーで参加者同士が記念写真

富良野のラベンダー園の人が教えてくれた
 雨の日の方が香りが強くなると
 町だってラベンダーのようにありたいと思った
 厳しいときこそ、人を呼び込む魅力を発したいと



雨で香る富良野のラベンダー園

三十六名が参加

—1日目

七月十八日午前六時、参加者に乗せたバスが、飯豊町役場を出発した。にぎわい再現プロジェクトの一つである「いいで未来号」が出航の日を迎えたのである。出発に先立ち後藤町長は「多くの若い皆さんに参加していただきうれしく思います。皆さんからどんな『町の夢』が語られるか今から楽しみです」とあいさつした。

一般の応募者二十七名、にぎわい再現プロジェクト委員六名、それに町長と事務局の合計三十六名が参加した。一般参加者の平均年齢は三十歳。これからのまちづくりを担う人たちが、積極的に参加してくださったのは頼もしい。一行は、飯豊町から新潟港へ到着。天気はいいにくの雨模様だった。しかし波は比較的穏やかに感じられた。午前十時半、北海道小樽港行きのフェリーは、参加者に乗せて新潟港を出航した。

出航から三時間。早速活動が開始された。まず手始めに「飯豊町クイズ」で参加者のお手並み拝見。町名の由来や人口、歴史に関するものなど町に関する幅広い分野の雑学が出題された。回答と解説を聞くごとに参加者からは「へ〜」「勉強になった」の声が続出した。住んでいても意外と知らないことが多いことを実感。

クイズの後は、いよいよ目的である「町の夢」を語り合う。参加者は六つの班に分かれ「町の将来の理想の姿」や「今町に必要なもの」「こんなことをやってみよう」とかと思いつくままに話し合った。どんどんと自由な「夢」を出し合い、それを付箋に書き留めて、似ているものはグループ分けしていく。すると町のどんな分野にどんなものが必要なのかが見えてくる。KJ法と呼ばれる議論の方法だ。最初は互いに遠慮しがちだったが、次第にどの班も熱気を帯び始め、議論は活発になっていった。ときには笑い声にも包まれ、初日のフェリー中ですっかり参加者同士は打ち解けていた。

テーマは「自然の息吹と共に生きる
～Community Supported For
Satisfaction～」。コミュニティで
助け合いながら満足勝ち取る。

自分たちで使うものは自分たちで
作り販売する社会に。内需を拡大
し、便利な町にして町内で循環。



やっかいな雪を資源として活用す
る。雪室など天から降ってくるも
のが資源となる。

町民が集まる場所に町外の人も受
け入れよう。堅苦しくなく、お酒
を飲みながら飯豊ファンの仲間を
増やす。



洋上で語り合った 町の夢・将来・幸せ

発表された多数の「町の夢」の
中から一部を紹介します。



気軽に若者が交流できる場を。婚
活の一環として、町内の飲食店を
会場に、月1回を合コンの日に！

ゆり園をもっと有効活用しよう。
四季折々に花が見れて、冬はス
ノーモービルや日本一のヤハハ工
口などの雪祭りを開催。

駅の利用者を増やすために、駅前
のロケーションを整備して立ち止
まってみたい駅にしてはどうか。

米や特産品をブランド化しPR。
例えば小中高生から野菜を使った
特産品開発のアイデアを募集し
てみる。

色とりどりの道路と歩道、子ども
たちの絵に溢れた独特の景観づく
り。

第1次産業×第2次産業×第3次産
業＝第6次産業で活性化
農業を第6次産業に結びつける。

まちづくり先進地視察

—2日目

一夜をフェリーで過ごし、翌朝、午前四時半に小樽港に到着した。港からバスで向かった先は、本町も加盟する「日本で最も美しい村」連合発祥の地、美瑛町。広大で美しい丘の景観が有名で、全国から多くの観光客を呼び寄せる。残念ながらやはりここでも雨に見舞われ、「パッチワークの路」を満喫することはできなかった。バスの中や施設内で地元組織「赤麦を守る会」の松田将照会長と町役場の池田由行政策調整室長から、景観を守るための取り組みについて説明を受けた。本町にとっても美しい農村景観を守っていくためには何が必要かを考えるきっかけとなる有意義な研修となった。

町の経済を活性化させることを実感した。

北海道でのすべての行程を終了し、午後七時半に小樽港を出航したフェリーは、参加者を乗せて帰路に着く。

「町の夢」を発表し合う

—3日目

その夜、波は高く、フェリーは大揺れで、船酔いする人が続出した。しかし、船上で迎えた三日目の朝からも参加者は気力を奮い起こし、「町の夢」とアイデアを班ごとにまとめる作業に集中した。一枚の大判用紙にまとめ、班ごとに発表した。力強く自分たちの夢を語った。各班の発表が終わると互いに称えあうように拍手が送られていた。

午後三時、新潟港が見えてくるころには、すっかり空は晴れ上がり、昨日までの雨と波がうそのように、海も空も真っ青だった。まるで町の未来を切り開く若者に語りかけるようだった。「荒波の試練を乗り越えたとき、きっと町には明るい未来があるはず」と。にぎわい再現プロジェクトは次のステップに入る。

3日間の旅を通して、若者は何を感じ、何を考えたのか。航海後の心境を語る。



にぎわい再現プロジェクト委員会委員長
高橋勝さん(添川)

Takahashi Masaru

「ほんきこ」で町を考える機会に

洋上で夢を楽しく語り合う「いいで未来号」は、無事に3日間の航海を終了することができました。早速船内では「己を知る」ための「飯豊町クイズ」。難題・珍問に悪戦苦闘！続いて「飯豊町の夢」について自由に意見を出し合うグループ活動。「こんな町でありたい！」「こうすれば人口が増える」など夢を語り、夢で終わらせないためのアイデアを考えました。最終日の発表に至るまで、全員が「ほんきこ」で町の未来を「何

とかしんなね」と思ったのではないのでしょうか！発表時に披露した各グループの大判用紙は、まさしく私たちの「いいで未来設計図」になると思います。あの船内で語り合った「わが町飯豊」への思いを忘れず、今後、にぎわい再現プロジェクトにおいて内容を精査・検証し、思いを「カタチ」に出来るように活動を進めていきます。まだ終わらない“いいで未来号”の旅。今後とも皆様のご協力をお願いし、町内外から参加していただいた方に感謝申し上げます。



安部良さん(椿)

Abe Akira

観光とは違う視点で参加

自分と同世代の若者たちがそれぞれいろんな形で町のことを考えていることに驚き、感心しました。今回の旅は、いつもの観光とは違い、飯豊町に今後活用できる場所はないかという視点で旅ができ、本当に有意義でした。われわれ若者が町の未来を担っていく上で大変勉強になりました。今回の旅を企画してくださった町長をはじめ担当者の方々やにぎわい再現プロジェクト委員の皆様へ感謝します。ありがとうございました。



若瀬也寸宏さん(添川)

Iwase Yasuhiro

ゆり園にも集客の方策を

今回は、残念ながら行ききのバスの移動から雨ということで、なかなか天候に恵まれませんでした。一番関心したのは、富良野市のラベンダー園です。雨にもかかわらずお客さんが大勢来ていたので驚きました。雨なのであまり見学者がいないと思っていましたが、観光地と言うこともあり私たち以外のお客さんもたくさんいました。町のゆり園ももっと勉強し、集客率の良い方策を発想していかなければいけないと思いました。



遠藤かをりさん(高峰)

Endo Kaori

活発な意見を出し合えた

今回は、友人に誘われて参加しましたが「もっと多くの人に参加してもらえたら…」と思いました。一番印象に残っているのは、グループ活動です。最初は不安でしたが、町についてみんなで楽しく考えることができ、良かったですし、予想以上に活発に意見が出され、楽しい活動ができました。日ごろは、自分が住んでいるところや職場のことが中心ですが、子育てとかが、いろいろな意見が聞けて、大変になりました。



音楽が楽しいのは
知っていた…

でもこんなに
笑えるなんて！



めざみの里カンタート

Mezami no sato cantat

歌ってよし、聴いてよし、笑ってよし
町が全国に発信する音楽イベント

日本を代表する音楽家を講師に招き、7月11日・12日の2日間にかけて、めざみの里カンタートが町民総合センター「あ～す」で開催された。「音楽からのまちづくり」を進める本町にとって、象徴的なイベントの一つである。今年も全国から合唱団体や愛好家がこの地に集まり、合唱の技術を学び、交流を深めた。

実は、めざみの里カンタートは、音楽にかかわっていない人でも、気軽に楽しめるイベントなのである。その魅力を紹介する一。



めざみの里
カンタート

11-12.July.2009



後藤町長も佐藤教育長も講師の話術に思わず
笑いが止まらない

めざまみの里カンタート だれでも楽しめるワケ

- ①講師は日本を代表する音楽家！
- ②音楽や話を聴くだけで楽しい！
- ③一流の合唱を生で楽しめる！

「カンタート (Cantata)」とは、一定の期間に集中して、合唱のためのコンサート、講習会、講演会などを行うイベントのことである。めざまみの里カンタートは、合唱をする人もしない人も一緒に音楽を楽しむイベントを目指している。

本町で開催されるようになったのは平成十八年からで、今年で四回目。イベントとしてはまだ若く、その知名度も十分とは言えない。しかし、その中

一緒に音楽を楽しむイベント

町民総合センター「あぐす」多目的ホールに入ると、まるで合唱と笑い声が交互に繰り返されているようである。参加者の歌声が聞こえ、その後で、講師のユーモアを交えた指導が入ると、会場の緊張が緩み、笑い声が起きる。

七月十一日、十二日の二日間、県内外の合唱団二十三団体と愛好家など合わせて約二百名が参加し、めざまみの里カンタートは行われた。



作曲家 池辺晋一郎先生

合唱指揮者の栗山文昭先生もまた日本を代表する音楽家である。活躍の舞台は世界で、そして今回のカンタートでは、皇族の前でも指揮を振られたエピソードを披露された。

そして著名な音楽家を講師として本町に紹介してくださっているのが、町の芸術文化振興専門員の村田さち子先生である。全国で歌われる合唱曲に村田先生の作品は多い。とくに子どもたちに向けた歌や絵本を見ると作詩家・翻訳家としてその名を知ることができ

類を見ないぜいたくな講師陣

身は全国に胸を張れるものとなっている。

音楽に少しでも関わっている人ならば、その講師陣に驚かされるだろう。まずは作曲家の池辺晋一郎先生。日本を代表する作曲家としてオペラ、舞台、映画と音楽活動の幅は広い。音楽業界だけではなく、映画監督や俳優からも一目置かれる存在である。



合唱指揮者 栗山文昭先生

カメラが追った2日間

PM 4:30



池辺晋一郎先生の講座

その名もずばり音楽語(おんラクゴ)。「音楽とは何か」を笑いと体験談をたっぷり交えて講義して下さった。

PM 2:15



横尾佳子先生の講座

合唱とアンサンブルのための発声方法を伝授。姿勢や息の吐き方など、参加者にはすぐに役立つものばかり。

PM 1:15



村田さち子先生の講座

コンクールの課題曲「とーびんと」の詩に込められた意味などを解説。詩の力や言葉の大切さを学んだ。

第1日目 PM 1:00



開講式

後藤町長は「飯豊町で音楽と自然と料理とたっぷり楽しんでいってください」とお客様へ歓迎のあいさつ。

本を代表する音楽家の生の声を。音楽に携わっていない人でも、音楽と言葉

得たからである。ぜひ機会があれば聴いて欲しい。日本を代表する音楽家の生の声を。音楽に携わっていない人でも、音楽と言葉

業界の裏話まで聞ける充実さ

さらに今年は、ヴォイストレーナー横尾佳子先生とピアニスト齋木ユリさんを迎え、この上ないぜいたくな講師陣でカントートを開催した。まさしく全員が日本の音楽界をリードしている人たちなのである。



作詩家 村田さち子先生

と語り、「故郷」が演奏されると、まるで日本に生まれたことの喜びを分かち合っているかのような郷愁の雰囲気

一流の合唱を聴き、溢れる感動
カントートを締めくくったのは、栗友会歌芝居「ごん座」の皆さんによる演奏会であった。指揮は、栗山先生自ら振る。明治・大正・昭和の日本の代表的な唱歌が、混声合唱と齋木先生のピアノによって美しくも力強く演奏された。栗山先生が「飯豊町に捧げます」と語り、「故郷」が演奏されると、まるで

の力を実感できるはずである。特に池辺先生の講義は、業界の裏話もあって大人気の講座となっている。一般の方は、二日目のコンクールと演奏会から参加することができる。今年にはコンクールに四団体が出場し、その歌声を競った。今年の課題曲は「飯豊山〜我が心のアルカディア〜」第二楽章「とーびんと」。同じ曲を歌っているにも、それぞれの団体に個性があることに気付く。声のポリューム、伸び、張り、そしてパフォーマンス。それぞれが自分たちの目指す合唱のスタイルがあることをうかがわせる。その発見がコンクールを聴き比べる楽しさでもある。さらにこのカントートのコンクールでは、審査員を務める池辺先生、栗山先生の講評がまたおもしろい。辛口でユーモアのあるコメントが、会場の笑いを誘うのである。「皆さん白い衣装で統一され、最初はステージの壁かなと思っていました。歌い出すと、とても明るく伸びのある歌声でした」（栗山先生の講評）。

Interview / 参加者の声



イベントが「育っている」ことを実感

ながた ずいしやう 長田瑞昭さん (広島県三次市・公務員)

前回参加した合唱仲間から誘われて、初めて参加しました。とても充実しているカントートだと思いました。音楽のイベントを盛り上げるのは難しいことが多いのですが、めざまの里カントートはスタッフの情熱が伝わってきます。飯豊町に芽吹いて、今まさに、成長過程にあるイベントだと思います。素晴らしい講師陣に恵まれているわけですから、ずっと続いて欲しいと思います。

会場に集まった人たちが、同じ音楽を聴き、同じ感動を共有したままにして、めざまの里カントートは幕を閉じた。「来年もまた来たい」。参加者の一人から聞かれたこの言葉に、すべてが集約されているようだった。

PM 3:15



栗友会歌芝居「ごん座」

プロの合唱と演奏の迫力を生で体験。音楽の持つ力と感動を会場の全員の胸に残し、カントートは幕を閉じた。

PM 1:00



合唱コンクール

課題曲は「飯豊山〜わが心のアルカディア〜」。4団体が出場し、これまでの練習と受講の成果を披露した。

第2日目 AM 10:00



栗山文昭先生の講座

合唱表現法と指揮法を指導。日本を代表する指揮者から直接学べるのはめざまの里カントートだからこそ。

PM 6:30



講師と参加者の交流会

池辺先生とピアニストの齋木ユリさんが即興でピアノを演奏。プロの巧みに会場はしばしばう然。

SPECIAL INTERVIEW

飯豊町と音楽を語る

音楽とまちづくり

合唱組曲「飯豊山く我が心のアルカディア」
作詩・作曲されたお二人に聞く

自信を与えてくれました。

——本町の「音楽からのまちづくり」についてのお考えを聞かせてください。

池辺 飯豊町には、村田先生に引き込まれる形で参加するようになったのですが、ほかにも山梨県北杜市や兵庫県姫路市の音楽祭などもお手伝いさせてもらっています。飯豊町の良さは、町長・行政・教育関係者の一生懸命さです。町が一つになってイベントを盛り上げようという情熱が十分に伝わってきます。

村田 同感です。私は飯豊を自分の町、ふるさとのように感じています。昨年の町制五十周年記念として飯豊中の皆さんが合唱組曲を精一杯歌う姿が印象に残っています。町民の皆さんが一つになって同じ方向を向いているのは、素晴らしいことだと思えます。——もっと多くの方に合唱をはじめとした音楽活動に関心

をもってもらうためには何が必要だと考えますか？

池辺 まず聴きにきてくれる環境づくりが大切だと思います。そのためには、コンサートを気軽に聴ける機会をたくさん与えてあげることにも必要です。また、聴くだけでなく参加したいという場合は、せっかく町の合唱組曲があるわけですから、毎年年末にベートーベンの第九を歌うように、年に一回でいいから町民が集まって歌う機会があってもいいと思います。

村田 私は、飯豊町とは十六年のお付き合いになります。初めて来たときの音楽会は運動会のようなものでした(笑)。子どもたちは会場を走り、お母さんたちはおしゃべりに夢中。でも今は、音楽を聴く姿勢がすっかりとできていて感動しました。やはり私も、音楽と向き合うには、生の音楽をたくさん聴くチャンスがあるこ

とが大切だと思います。

——最後に音楽をがんばりたいと願う子どもたちへメッセージをお願いします。

池辺 運動も音楽も、好きになることが一番の出発点。日常の楽しみから楽器に触れ、歌を歌い、聴く楽しみを知ります。音楽に取り組むことは、自分の目標をどんどんと高めていき、仲間との協調性を育みます。どうぞ楽しみながらがんばってください。

村田 私は、中学生のとき黒人オペラ歌手マリア・アンダーソンの歌声を授業で聴き、その美しさに涙が止まらなかった経験があります。強烈にしびれ、歌をやりたいと強く感じました。どんな分野でも、自分の感受性に強く響くものがあれば、それを大切にしたい、伸ばしていきたいと思えます。

profile

●いけべ・しんいちろう/1966年日本音楽コンクール第1位。以後、ザルツブルクTVオペラ祭優秀賞、イタリア放送協会賞3度、国際エミー賞、日本アカデミー賞優秀音楽賞8度など。オペラ「死神」、映画「影武者」「うなぎ」の音楽他。東京音楽大学教授。東京オペラシティ、石川県立音楽堂他の監督、委員を務めている。
●むらた・さちこ/主な作品として、NHK音楽コンクール中学校課題曲「ミスター・モーニング」ほか小・中・高課題曲。広島国民文化祭テーマ合唱曲、NHK日本賞テーマ曲など。ディック・ブルーナー「ミッフィー」、ディズニーの絵本など翻訳・執筆多数。

●作曲家

池辺晋一郎さん

●作詩家・翻訳家

村田さち子さん



競争を勝ち抜いて全国大会へ

二十三人の心が一つとなり、合唱組曲「飯豊山」を歌い上げたとき、会場からは万雷の拍手が鳴り響いた。

天童市で六月十四日に開催された第三十二回全日本おかあさんコーラス東北支部大会に出場した本町の女声合唱団コラル・ド・めざまみ(高貫庸子代表・黒沢)は、念願の全国大会への出場推薦を獲得した。

東北六県から五十団体が出場。そのうち全国大会への推薦状を射止めたのは、コラル・ド・めざまみを含め五団体だけという難関の合唱コンクールであった。

大会でコラル・ド・めざまみは、町の合唱組曲「飯豊山〜我が心のアルカディア〜」から第二楽章「とーびんと」と第五楽章「飯豊山」を熱唱。合唱の出来はもろろのこと、曲に出てくる方言の詩への振り付けなど、団員全員で歌を楽しんでいる姿勢が、審査員から高く評価された。

集中力で実力を発揮

「すごい集中力でした。ステージでは安心してメンバーの前に立つことができました。練習やりハールサルよりも気持ちが入っていて、伸び伸びとした合唱になりました」

指揮者の小松伸子さん(長井市)は、大会を振り返って語る。小松さんは声

コラル・ド・めざまみの飛躍
カントートで磨かれた合唱

楽家として活躍する傍ら、平成六年の結成からここまでずっとコラル・ド・めざまみを育て、まとめ上げてきた存在である。さらに「ここまでこれたのは、村田さち子先生や池辺晋一郎先生、栗

山文昭先生など多くの講師の方々のおかげです」とめざまみの里カントートに對しての感謝の気持ちを忘れない。学んだことを無駄にしないという意欲の表れでもある。

コラル・ド・めざまみの強みの一つとして、団員一人ひとり、合唱組曲「飯豊山」に誇りを持っていることがある。自分たちの町の歌を全国に発信したいという情熱で一致しているからだ。

「飯豊の歌を全国の人に聴いてもらいたいので、おもいっきり歌ってきます」

(石山米子さん・萩生)
「この町で生まれた合唱曲を全国にアピールしてきます」

(中村文子さん・添川)
「聴いてくださっている方に感動を与えられるよう精一杯がんばります」

(手塚廣子さん・黒沢)

基本を忘れずに臨みたい

それぞれに仕事を持ち、家庭がある中で、団員は全国大会に向けて日々練習に励んでいる。



見事全国大会の切符を手にして喜ぶコラル・ド・めざまみのメンバー



全日本おかあさんコーラス
合唱組曲「飯豊山」を熱唱し
全国大会の出場権を獲得!!

コラル・ド・めざまみには、「飯豊山〜心のアルカディア〜」が自分たちの歌だという自負がある。力強く自信に溢れた合唱が持ち味

「今の調子を崩さないこと。本番ではさらに良い演奏ができるように基本から練習しています」と小松さんは気を引き締める。

全国大会は八月二十二日と二十三日の二日間、愛媛県松山市で開催される。本町の自然、文化、歴史を詩と曲の中にふんだんに織り込まれた合唱組曲が、いよいよ全国の舞台で飯豊町の女性たちによって発信されようとしている。エールを送らずにはいられない。



真夏に雪と夢を 子どもたちへ

中津川地区のみんなで作るプロデュース

白川ダムSNOWえっぐフェスティバル



雪上のスイカ割り。割ればひんやりおいしいスイカにありつけそう

七月二十五日・二十六日の二日間、白川ダム湖岸公園で第十九回白川ダムSNOWえっぐフェスティバルが行われ、町内外から訪れた多くのお客様でにぎわいました。中津川地区内の雪室貯蔵施設で保存されていた十トトラック約八十台分の雪を会場に準備。たっぷり雪を敷き詰めた競技場が作られ、雪上で滑った距離を競う「雪上カーリング」や雪玉を投げて命中を競う「ストラックアウト」など盛りだくさんのアトラク

雪の遊び盛りだくさん お客様大満足の2日間

ションが用意されました。なかでも雪上スイカ割りに子どもから大人まで多くの人々が列を作って参加。周りから「左!」「右!」「まっすぐ!」などの掛け声を受けながら懸命にスイカまで接近するも、大きく空振りすると、会場は笑い声に包まれました。そのほか人気を集めたのは、雪上宝探し。湯の華(広河原間欠泉)の宿泊券やホテルフォレストいいでの食事券など豪華商品が埋められているとあって、お客様は大興奮。

冷たさを忘れて夢中で雪を掘っていました。オープニングセレモニーでは、途中大雨に見舞われるアクシデントがあったものの、花火大会直前の夜八時にはぴたりと雨が止み、夜空に大きく鮮やかな花火が打ち上げられました。二日目は、雨で順延となつた中津川中学校の生徒によるよさこいソーランが披露され、力強い迫力ある踊りに会場から大きな拍手が送られていました。



③



①



②

● ● photo ● ● ● ●

①前夜の雨で翌日に繰り越された中津川中によるよさこいソーラン。力強さと一糸乱れない踊りがお客様を魅了 ②地元宿泊施設の宿泊券や食事券など豪華商品が埋められた雪中宝探しの多くのお客様でにぎわった ③雨上がりの夜空に大輪を咲かせた大花火大会。1発打ち上げられるごとに大きな拍手が送られていた

夏休みふるさと山村留学

都会っ子、中津川の自然を大満喫！

7月24日から27日までの4日間、中津川地区では都会の子どもたちを受け入れる夏休みふるさと山村留学が行われました。都会っ子に山村生活の素晴らしさを知ってもらおうと、中津川小中の保護者などが主催し毎年開催。今年は、埼玉県川口市の小学生18人が参加。子どもたちは、SNOWえっくフェスティバルの参加や農家への民泊、キャンプ、川遊びなどを通して、地元の人たちと交流し山村生活を楽しみました。参加した子どもたちからは「クワガタムシとカブトムシを捕まえることができたのでとってもうれしい」などの声が聞かれました。



自分で捕まえたクワガタムシを見せ合う子どもたち

ダムとのふれあいの日

白川ダムを身近に感じて

7月26日、白川ダムで「ダムとのふれあいの日」のイベントが開かれました。これは、白川ダムの目的や役割などについて知ってもらおうと、SNOWえっくフェスティバルに合わせて毎年開催されているものです。ダム内の監査廊見学やボートに乗っての貯水池巡視体験など、普段はなかなかできない体験ができることあって、町内外から家族連れなど多くのお客様が訪れました。さらにイベント会場内には、流しそうめんの振る舞いが準備され、お客様は、つぎつぎと流れてくるそうめんを懸命にはしですくいながら、おいしそうにほお張っていました。



貯水池巡視体験を楽しむ親子。より一層ダムの大きさが実感できる



帰国前の緊急インタビュー

外国語指導助手

パティオ・クリサンタさん

2007年7月から本町の外国語指導助手として活躍されたパティオ・クリサンタ（愛称クリスイー）さんが、7月29日をもってその任期を終え、アメリカへ帰国されました。

言葉の壁を越え、初めて体験する雪国の生活にとまどいながらも、とても楽しく2年間飯豊町で過ごせたと言います。子どもたちとの思い出などについてインタビューしました。

They are so cute! All of them! When I first met them they were a little nervous but very curious. They are so energetic, welcoming, active and hard-working. I have realized that they all have unique personalities. Many of the children in tide try their best to talk to me even though they don't know English.

——飯豊町の生活で最も思い出に残っていることは何でしょうか？

子どもたち、町民の皆さん、田畑、山々、笑顔…全部です。あえて最も印象的だったことを挙げれば、めざみの里まつりです。初めての年は、ゆかたを着て踊りました。二年目は、やぐらの上で太鼓を叩かせてもらいました。多くの町民の方がこのお祭りに参加していて、にぎわいがあったて楽しかったです。私にとって飯豊町に溶け込んだことを実感させてくれた経験でした。

——本町のどんなところが好きでしたか？

二つあります。一つ目は、環境です。きれいで愛らしい平和な町。大きな建物はありませんが、たぐさんの山と田んぼに囲まれています。この風

景は、自動車などで混雑したカリフォルニアの都市出身の私にとって、本当に素晴らしいものでした。ストレスを感じていらしたとき、町の風景を見渡すとすぐに気持ちやすつとして、幸せな気分になりました。

二つ目は、町民の皆さんです。私これまでこんなに親切で献身的な人たちにお会いしたことはありませんでした。飯豊町に住んでいる間、不安やホームシックを感じたことはまったくありませんでした。なぜなら子どもたちを含め、多くの人たちの驚くべき優しさがあったからです。

——逆に本町の生活で困ったことはありますか？

やっぱり冬の雪には最も手こずりました。私は今まで雪の降るところに住

んだことがありませんでしたから、とっても新鮮な経験でもありました。最初の冬を迎えたときは、とても寒くてしょっちゅう風邪をひいていました。しかし、飯豊町の冬からは多くのことを学びました。灯油、ヒーター、こたつ、雪かき、長靴、雪道運転（ポンピング・ブレーキ）、カイロ、吹雪などです。吹雪は本当に怖くて、驚きました。確かに厄介な季節でしたが、雪自体はとても美しいものでした。

それとカエルにも悩まされました。飯豊町のどこにでもカエルはいるんですね！不運にも、私はカエルがとても苦手なんです。おかげでこの町でカエルにまつわるたぐさんの経験をしました。冬はとても寒いですが、雪が降るとカエルがいなくなるので、私に

●●●profile●●●

Patio Crysanta (パティオ・クリサンタ) ●1985年4月生まれ。米国カリフォルニア州アーバイン市出身。2007年6月までカリフォルニア大学アーバイン校で生物医学系工学を専攻。2007年7月、外国語指導助手 (ALT) として来日し飯豊町に着任。米空軍に勤める父の関係から、93年から8年間、沖縄県に住んだ経験を持つ。現在は学生生活に戻り、医師助手を目指し勉強中

私の愛した飯豊町と子どもたち

クリスティーからのメッセージ

とってちよっぴり魅力的でもありません。た。

——本町の子どもたちについてはどのような印象を持たれましたか？

みんな本当にキュートです。私と初めて会ったとき、子どもたちは、少し不安げにそして興味深そうでした。しかし彼らはとても元気で、温かく、積極的に一生懸命授業に取り組めます。ユニークな個性を持っていることも分かりました。飯豊の子どもたちの多くは、英語が分からなくても懸命に私と話をしようとがんばります。また、私も子どもたちから多くのことを学びました。例えば、日本語の会話、鬼ごっこでのバリアの仕方とか。子どもたちの元気と情熱が、私のエネルギーとなりました。

——本町で過ごした経験を今後どのように生かしていきますか？

飯豊町での経験は、本当の地域社会というものを気づかせてくれました。多くの町民の皆さんに生活の手助けをしていただきました。このことは、私もできるだけ多くの人々を助けよう、そしてほかの地域にもその精神を伝えようという、動機づけとなり自分を鼓舞させます。

また、囲まれた自然の中で、落ち着きを取り戻し、楽しむことを学びました。また、自然の美しさや資源循環に



本当に飯豊町の子どもたちを愛してくれたクリスティー先生。言葉の壁を越え、2年間で深い絆が築かれていた



バイタリティーに富んだクリスティー先生は、出羽之國飯豊山白流太鼓保存会のメンバーとしても活躍

よる環境保護についても深く理解することができました。

——今後の予定についてお聞かせください。

母校で医学の分野の勉強を続けるつもりです。皮膚病学の医師助手になりたいと考えています。

——最後に町民の皆さんへメッセージをお願いします。

以前来日したときは、山形県、とくに飯豊町のことは何も知りませんでした。ですから少し不安を抱えていました。しかし、今、私にとって二年間飯豊町に住むことができたのはとても幸せなことでした。もし、町や県を変えることができたとしても、私は変わらずに住んでいたいと思います。町のことや皆さんのことを知ることができ、たくさんさんの思い出と共に旅立つことになります。

私が、皆さんに、特に子どもたちに願うことは、英語を楽しく学び続けてほしいということです。そのことは次の新しい時代にとってとても大切なことだと思えます。

ぜひ世界を旅し、アメリカを訪れてください。皆さんのご厚意に心からお礼申し上げます。ありがとうございます。

クリスティー先生とのお別れの日

クリスティー先生による最後の授業の日、各小中学校では、それぞれにお別れの会が開かれました。そのうちのつ添川小では、お昼休み時間、全児童がホールに集まりクリスティー先生との別れを惜しみました。

児童たちからクリスティー先生へ感謝の気持ちを書いた寄せ書きと歌をプレゼント。涙で潤む目でクリスティー先生は、何度も「ありがとう」と感謝の言葉を繰り返していました。クリスティー先生は、子どもたちへ「失敗を恐れずに、どんどん英語にチャレンジしてください」とお別れの言葉を送りました。



クリスティー先生へ今までの気持ちを込めて大きな声で歌のプレゼントを贈る添川小の子どもたち



すずき えいきち

鈴木栄吉さん (高峰) | 東北索道協会会長表彰

6月30日、宮城県仙台市で行われた東北索道協会定時会員総会において、鈴木栄吉さんが東北索道協会会長より優良従業員表彰を受賞しました。

鈴木さんは、平成4年から手ノ子スキー場に勤務され、長年にわたり安全なスキー場運営に貢献されました。特に索道技術管理者としてリフトの適切な維持管理と安全運転を重視し、子どもから大人まで楽しくスキーができる環境づくりに努められました。鈴木さんは「このたびの受賞は、スキー場のスタッフの皆さんの協力があったからこそです。より一層、安全で楽しいスキー場にしていきたいです」と今後の抱負を語っていただきました。



表彰状を手にする鈴木栄吉さん

よこさわのりこ

横澤典子さん (黒沢) | 東北地区体育指導委員功労者表彰

7月10日、青森県八戸市で行われた東北地区体育指導委員研修会において、横澤典子さんが東北地区体育指導委員功労者表彰を受賞しました。

横澤さんは、平成2年から町の体育指導員を務め、長年にわたり地域のスポーツ振興に貢献されました。さらに長井地区家庭婦人バレーボール連盟理事長を歴任するなど、バレーボールを通して、女性の積極的なスポーツ参加への環境づくりに力を尽くされました。横澤さんは「体育指導員の仲間や家族の支援のおかげだと感謝しています。これからも女性がスポーツを楽しめる環境づくりに努めたいです」と受賞の感想を語っていただきました。



表彰状を手にする横澤典子さん

いとうやすし

伊藤靖さん (椿) | 山形県体育指導委員協議会表彰

7月4日、尾花沢市で行われた山形県体育指導委員研究大会で、伊藤靖さんが山形県体育指導員協議会表彰を受賞しました。

伊藤さんは、平成10年から町の体育指導員を務め、長年にわたり地域のスポーツ振興に貢献されました。さらに、白樺バレーボールスポーツ少年団の指導に20年以上携わり、バレーボールを通して子どもたちへスポーツの楽しさを教えてきました。伊藤さんは「社会体育に関わる多くの皆様のご協力のおかげです。この受賞を機に、いいで総合型地域スポーツクラブ設立の準備などより一層、町のスポーツの振興と発展のためにがんばります」と受賞の感想を語っていただきました。



表彰状を手にする伊藤靖さん

第一小学校 | 「小さな親切」実行章受賞

6月16日、第一小(大道寺高明校長)が「小さな親切」運動実行章を受賞しました。

受賞の対象となったのは、登校中の子どもたちの丁寧な対応でした。子どもたちは、横断歩道を渡るために止まってくれたドライバーに対して頭を下げて元気よく「ありがとうございました」とお礼の気持ちを伝えています。このことでドライバーがさわやかな気持ちになり、安全運転の意識高揚にも寄与すると評価されました。大道寺校長は「子どもたちの自主的な対応が評価されてうれしく思います。運動は全校的に広がっており、第一小の良き慣習になると思います」と受賞の感想を語っていただきました。



帽子を脱いでしっかりお辞儀する第一小の児童たち



◆西置賜地区中学校陸上競技大会

◇低学年400mリレー第3位／飯豊中（伊藤理沙、川村真美、松村知実、木村由夏）

◆吹奏楽コンクール置賜地区予選

◇優秀賞／飯豊中（県大会出場）

◆ゆり祭り将棋大会

◇Bクラス第3位／橋本清

◆ゆり写生大会

◇ゆり大賞／寒河江亮太（手ノ子小）、高橋空（手ノ子小）、大城爽代香（手ノ子幼稚園）

◇特別賞／舟山陽菜（つばき保育園）、舟山晴斗（添川小）、嶋貫舞（手ノ子小）、齋藤朱莉（手ノ子小）、伊藤恵理香（中津川中）、米野千春（一般・添川）

◇園児の部／【特選】梅津愛（手ノ子幼稚園）【入選】遠藤悠夏（添川児童センター）【佳作】根岸志帆（いいで中部幼稚園）

◇小学校低学年の部／【特選】寒河江俊介（手ノ子小）【入選】山口和也（第二小）、横山佑真（手ノ子小）【佳作】舟山湧斗（添川小）、長沼有紀（第二小）

◇小学校中学年の部／【特選】梅津優香（手ノ子小）【入選】多田野怜良（第一小）、志田千紘（第二小）、【佳作】渡部あや乃（第一小）、寒河江恭平（手ノ子小）

◇小学校高学年の部／【特選】嶋貫佑平（手ノ子小）【入選】小浦未来（第一小）、寒河江綾根（手ノ子小）【佳作】佐藤未沙姫（添川小）、佐原詩乃（添川小）、石原花凜（第二小）

◇中学生の部／【特選】米野太郎弥（飯豊中）【入選】高橋ほたる（中津川中）【佳作】野嶋聖寿（飯豊中）

◇大人の部／【特選】村井春美（添川）【入選】遠藤由紀（添川）【佳作】舟山みほ（松原）



ペットボトルのキャップで
世界の子どもたちを救おう

save the earth, save the children

飯豊中エコキャップ・ボランティア

キャップがポリオワクチンに

飯豊中学校では、生徒会（樋口生貴生徒会長）が中心となり、今年4月からエコキャップ・ボランティアに取り組んでいます。

エコキャップ・ボランティアの目的は2つ。1つ目は、ペットボトルのキャップを回収し、ごみの削減に貢献すること。2つ目は、資源ごみとして回収したキャップを換金し、ポリオワクチン購入にあてて世界の貧しい子どもたちに届けることです。

この事業は、NPO法人エコキャップ推進協会が主体となって行っており、飯豊中はこの活動に賛同し、キャップの回収と提供に協力しています。

通常のペットボトルのキャップ800個でポリオワクチン1本分(20円)となり、その接種によって1人の子どもの命が救えるとされて

います。飯豊中では、全校生と家庭、そして町内コンビニエンスストアの協力を得て、4月の開始から7月21日までに、7,540個（ワクチン9本分）を回収しました。今でもその数は増え続けています。

活動のテーマは「命」

活動の指揮を執る執行部の後藤七瀬生徒会副会長は「今年度は「命」をテーマにした生徒会活動に取り組もうということで、エコキャップ・ボランティアを始めました。地球環境にも優しく、同時に世界の子どもたちの命を救えるというのは素晴らしいことだと思います」と語ります。

飯豊中では、広く町民の皆さんにも協力を呼びかけています。

今まで無意識に捨てていたペットボトルのキャップ。それで救える命があることをご存知だったでしょうか。

エコキャップ持ち込みの注意点

- 材質は、PP(ポリプロピレン)のものです。大きさは問いません
- 汚れや液体を洗い落とし、乾かしたものを持ち込んでください
- シール類は、はがしてください
- カラースプレーなどを使って自ら塗装したものは回収できません
- 金属類のふたは混ぜないでください
- 学校にお持ち込みの際は、事前にご連絡をいただくか、職員に一声おかけください

（飯豊中学校☎72-2129）



回収の実績と回収箱を示す生徒会執行部員。正面玄関に入って真ん前の場所に設置されている

まちかどニュースは、皆さんの広場です。
地域のできごとやご意見などお気軽にお寄せください。
総務企画課総務情報室まで ☎72-2111内線224



国道113号手ノ子歩道整備事業・(主)長井飯豊道路改良事業説明会

より安全な道路を目指して

7月9日、西部地区公民館で、国道113号の歩道拡幅と県道長井飯豊線付け替えに伴う事業説明会がありました。地域住民にとって、交通安全上、国道と県道の道路改良は長年の念願でした。今年度からの事業開始が決定し、出席した住民約35名に対して、国土交通省山形河川国道事務所と置賜総合支庁西置賜道路計画課の担当者から事業概要が説明されました。この事業は、平成24～25年度中の完成を目指します。

飯豊町安心生活創造委員会

ずっと安心して暮らすために



7月29日、健康福祉センターで飯豊町安心生活創造委員会が行われました。町内から選ばれた22名の委員と外部委員として県外の有識者も出席。会長には伊藤榮造さん（高峰）が選出されました。会合では町の高齢社会の現状や事業内容の説明などがあり、さらに今年度中に、高齢者世帯へのアンケート調査を実施し、生活の実態や必要とされる支援内容を検討していくことなどが話し合われました。

※安心生活創造事業については、「広報いいで7月9日号」を参考ください。

食育講演会

料理人森野熊八さんを迎えて



7月18日、町民総合センター「あ～す」で食育講演会が行われました。講師には、料理人でタレントの森野熊八さんを迎え「『もったいない』が食育の基本」と題した講演がなされました。子どもを持つ保護者など約220名が聴講。森野さんは「子どもたちは自分で料理したものは残さずしっかり食べます。どんどん料理に挑戦させてください」との話があり、参加者はうなずきながら熱心に耳を傾けていました。



町議会議員との意見交換会

まちづくりの意見を交わす

7月26日、町民総合センター「あ〜す」で、町民と町議会議員との意見交換会が行われました。「まちづくりと将来の町の在り方」などについて意見を交わすことを目的とし、部落長会と町議会が共同で開催しました。全町議12人と部落長など約50名の町民の方が参加し、「町の産業振興」と「にぎわい再現」の2つのテーマで話し合われました。町民の所得向上のための具体案、行政からの補助金のあり方など、意見は多岐にわたり、両者の間で活発な意見が交わされました。

山形県緑の少年団交流研修大会

みんなで学ぶ、緑の大切さ



7月29日・30日の2日間、中津川地区にある源流の森を会場に山形県緑の少年団交流研修大会が行われました。添川小をはじめ県内各地から11団体約120名の子どもたちが参加。開会セレモニーでは、中津川中の生徒がよさこいソーランを披露し歓迎しました。子どもたちは、白川湖畔周辺の森の散策や笹巻きづくりなどを体験し、森林の大切さや置賜地方の文化を学ぶと共に、団員同士の交流を深めていました。

永年勤続優良社員表彰・新規学卒就職者激励会

町内で働く皆さんを激励



7月28日、中部地区公民館で、永年勤続優良社員表彰・新規学卒就職者激励会が行われました。町内事業所で長年にわたり優良社員として勤務された10名の方が鈴木忠好商工会長より表彰を受けました。さらに、厳しい就職活動を乗り越えて、今年度から町内事業所に就職した22名の方には、後藤町長から記念品が渡されました。一人ひとりが町長と握手を交わし「お仕事がんばってください」と激励を受けました。



7/24

水力発電イルミネーション 点灯式
(松原地区白川公園内)



7/14

びっくり！双子のアスパラガス
(横澤みな子さん生産・添川)



7/1

町国際交流協会中国大連市訪問
(中華人民共和国大連市)

直伝おふくろの味



※写真は、コロケに利用した調理例です

野菜入り万能ひき肉

余った野菜を無駄にしない「保存のススメ」

【材料】（保存一回分の目安として）

◇野菜

500g_{グラム}

（例：ピーマン、にんじん、玉ねぎなど）

◇合いびき肉

500g_{グラム}

◇塩

小さじ1杯

【作り方】

- ① 野菜をみじん切りにする
 - ② フライパンに油をひき、①を炒め、しんなりしたら、合いびき肉を入れてさらに炒め、塩で味をつける
 - ③ 冷ました②を使いやすい量に小分けしてラップに包み、冷凍保存する
- ※使用前は解凍してお使いください

【使い方の例】

- ジャガイモと混ぜコロケの具に
- オムレツの具として
- カレー粉と合わせてドライカレーに
- 残りご飯と炒めてチャーハンに
- 豆腐と煮込んで麻婆豆腐に
- トマト缶とあわせてミートソースに



小白川地区
食生活改善推進員
相馬キミ子さん

常備しておくと、短時間で料理ができてとても便利です

料理というよりも、簡単で役立つ保存方法を紹介したいと思います。

料理をしていると、野菜が中途半端に残ることが多いと思います。そういうときは、捨てるのではなく、このようにひと手間かけて保存してみてもいいかがでしょうか。上記の【使い方の例】に示したとおり、いろんな料理に使い回しができます。

使う野菜は問いません。それぞれの家庭で出たものを無駄なく利用してください。ただし、合いびき肉と野菜を同量にすることがポイントです。

夏休み中は、お子様が家にいることが多いと思います。ぜひ、この保存方法を活用して、昼食の手軽な準備に役立ててください。



こどもみらい館の予定表
(8月・9月の日程)

- 8月18日(火) 10:30~ ほのぼの講座
- 19日(水) 10:30~ おはなし広場
- 27日(木) 10:30~ かんがるー広場
- 9月5日(土) 10:00~ 子育て講座
- 「親子で体を動かして遊ぼう」(無料・要申込)
- 場所/こどもみらい館 対象/1歳児以上
- 10日(木) 10:00~ リトミック
- 場所/町民総合センター「あ〜す」 対象/4歳児以上

お問い合わせは子どもみらい館まで

episode

子育て応援
kosodate
ouendan 談

家族から学ぶ人間関係
「感謝したい祖父母の心」

おじいちゃん、おばあちゃんの前では、少々の「きかなさ」が許されて、子どもはわがままになってしまうもの。でも同時に、祖父母をいたわる気持ちが自然に身についていくから不思議です。

せんべいをパチンと割って「これは、ばあちゃんに」と差し出すわが子。

学校の作文にも家庭の話題が盛り込まれ「おじいちゃん、おばあちゃんとの優しい触れ合いがいいですね」と、先生からのお褒めのメッセージ。

「三つ子の魂百まで」とはよく言ったもので、大学生になり下宿探しも自分で家庭的な所を選び、大家さんから孫のように接してもらっていました。

生きていく上で大切な人との関わり。その「温かい心」を育ててくれた祖父母にあらためて感謝したいと思うのです。

- 役場教育文化課子育て支援室 ☎72-2111内線160、163
- こどもみらい館 ☎72-3336



今月のおすすめ図書

児童図書

「ひろとチロのなつまつり」

成田雅子/作・絵 講談社

飼犬チロの死を受け入れられないひろ。ある日、夏祭りの太鼓の音に誘われて、広場にやってきます。そこで、ひろが出会ったのは……。ちょっぴり悲しいけれど、すがすがしい、心にひびく絵本。

児童図書

「超図解工作大図鑑—子どもがひとりで最後まで作れる！」

かざまりんべい/著 主婦の友社

ゴム動力ヘリコプターやスチーム・エンジン・ポンポン船、トントン紙相撲など身近な材料を使った41種の工作作品の作り方を、写真とイラストでわかりやすく解説する。

一般図書

「骸骨ビルの庭」(上・下)

宮本輝/著 講談社

住人を立ち退かせるため、管理人として骸骨ビルに着任した八木沢。そこは戦後、2人の青年が戦争孤児たちを育てた場所だった……。すべての生きとし生けるものへ贈る感動の長編小説。

一般図書

「トコトンやさしいバイオガスの本」

澤山茂樹/著 日刊工業新聞社

バイオガスは、多様な微生物がバイオマスを分解して作る環境にやさしい燃料です。バイオガスの生成の仕組みや原料からの作り方、使い方、バイオガス化事例などバイオガス全般について紹介します。

- 開館時間 午前9時～午後6時(6月～10月)
※8月13日(休)・土・日曜日は、午前9時～午後5時まで
- 休館日 毎週月曜日・祝日・年末年始
- 臨時休館日 9月5日(土)・6日(日)
- 問合せ先 町民総合センターあ〜す図書室 ☎72-3111

ルーエッセー 校長室便り

「心のやさしい子どもの育成」

添川小学校 渡部恭子校長

Profile

わたなべ きょうこ
1955年12月、南陽市生まれ。
長井市西根小教頭、中津川
小中校長を経て08年4月より
当校に着任。趣味は手芸。
教育者としてのモットーは
「子どもたちの笑顔のため
に」。笑顔で明るく楽しい
学校生活ができる環境づく
りを大切に考え努めている。
黒沢在住



今年度、本校が目指しているのは、「心のやさしい子どもの育成」です。

毎日のように子どもが関わった事件や事故の報道を目にします。そんな中、自分の思いをうまく伝えたり、相手の気持ちを考えてやったりすることがとても重要なこととして取り上げられ、県内でも「やまがた教育コミュニケーション改革」を推進しています。

そこで本校では、すべての教育活動を「心のやさしい子どもにするには」という視点で見直すと共に、より温かい人間関係を築くためのソ



人間関係を学ぶ「セカンドステップ」で楽しく活動する子どもたち

シャルスキルトレーニング「セカンドステップ」という教育プログラムに取り組んでいます。相手の気持ちを理解し、自分の思いを素直に伝えたりコントロールしたりする方法を、段階を踏んで学び、日常生活や学習に生かしていくことを目指しています。まだ始めたばかりですが、表情から気持ちを理解することを学んだ後、子どもたちは国語の教材の挿絵の表情にも敏感になりました。私たち教職員も、子どもたちの良いところを伸ばすよう、いつばい褒めることを心がけています。

子どもたちが毎日笑顔で生活できるよう、そして、学校が大好きになるよう、保護者の皆様のご理解とご協力のもと、教職員一同尽力して参ります。

連載

町長の見て歩き⑤

後藤 幸平

「『若者たち』をもう一度」

君の行く道は 果てしなく遠い
だのになぜ 歯をくいしばり
君は行くのか そんなにしてまで
君のあの人は いまはもういない
だのになぜ 何を求めて
君は行くのか あてもないのに
君の行く道は 希望へと続く
空にまた 日が昇るとき
若者はまた 歩き始める

一九六〇年代後半の大ヒット曲である。「両親のいない五人の兄弟が社会の現状に立ち向かい逞しく生きて行く姿を描いたドラマの主題歌だ。映画「若者たち」では、お金や地位を得なければと教える兄とそれより大事なものがあると反発する兄弟たちの葛藤がリアルに描かれて大きな反響を呼んだ。私たちの世代はこの歌の歌詞とメロディーが身体の中にインプットされており、立ち向かうべき何かがあると自然に口ずさむ。

七月十八日から二十日までの三日間、若者の夢と希望を乗せた「いいで未来号」がついに出航した。にぎわい再現プロジェクトのスタッフと

公募に応じた若者など三十六名を乗せて新潟港から小樽港までの往復三日間の船旅である。あいにくの風雨に見舞われ船酔い続出の厳しい船出となったが、飯豊の将来と自分たちの夢を重ね合わせて真剣に語り合う姿に、わが町の将来はまさに彼らとともにあることを実感したのだった。

七月二十五日と二十六日は、中津川地区の若者たちによるSNOWえつぐフェスティバルが開催された。真夏に雪と遊ぶアイデア溢れる催しは予定通り行われたものの、中学生が猛練習して望んだ「よさこいソーラン」がいよいよ始まるというそのときに雷鳴とともに夕立の襲来となつて皮肉にも雨足は速まるばかり。演技は延期となった。悔しさに泣き出してしまふ子供たちに先生も大人たちも胸を熱くした。

ひたむきにみんなのために何かをやるうという姿、そのものが尊いのだ。「若者たち」をもう一度と、久しぶりに熱い二つの場面に遭遇して感慨を新たにしたい。

第三セクター 決算報告

【問合せ先】
役場産業振興課商工観光室
☎72-2111内線250

雇用創出・経済活性化を目指して

第三セクターは、地域雇用の創出、経済の活性化といった目的を達成するための一手法として行政主導で設立されたものです。町内には現在7つの第三セクターがあります。そのうち、町の出資比率50%以上の4つの第三セクターの経営状況と決算について報告します。

㈱飯豊町産業開発公社

主要業務：しらさぎ荘の管理運営
所在地：添川3020番地5
設置時期：平成3年10月
資本金：2,000万円
町の出資割合：77.5%
従業員数：11名
20年度売上高：2億6,205万円
当期損失：675万円

平成20年度の入湯者総数は約14万8,300人、宿泊者数は約1万600人と前年に比べそれぞれ3%程の減少となりました。経済不況などによる入浴意欲減退などが要因と考えられます。一方、女性客や日帰宴会利用が増加しており、お客様ニーズにあったサービスの提供に努めました。

当期純損失は675万円。利益剰余金はマイナス3,048万円となりました。

(5月28日開催の株主総会にて、平成20年度第18期営業および決算報告などを承認)



しらさぎ荘

経済不況や燃料高騰などによる宿泊利用者の減少など、特に冬期間は厳しい経営環境にありましたが、一方で、どぶろく関連商品開発と販売、健康志向の高まりによるパークゴルフ利用者の増加、台湾からの観光客受け入れなど、今後の事業展開への効果が期待できます。

当期純損失は548万円。利益剰余金はマイナス4,509万円となりました。



白川荘

(5月27日開催の株主総会にて、平成20年度第17期営業および決算報告などを承認)

㈱緑のふるさと公社

主要業務：白川荘および白川湖周辺施設の管理運営
所在地：須郷354番地7
設置時期：平成4年8月
資本金：8,800万円
町の出資割合：86.9%
従業員数：31名
20年度売上高：2億5,189万円
当期損失：548万円

ガソリン高騰などに伴う出控えなどもありましたが、春先の顧客の動きが好調であったことや冬期間の穏やかな気候にも恵まれ、来館客数は5,300人の増となり、売り上げも前年を上回りました。また、経費節減と棚卸資産の厳格査定など、経営体質の強化に努めてきました。

その結果、当期純利益158万円、利益剰余金371万円となりました。

(5月25日開催の株主総会にて、平成20年度第14期営業および決算報告などを承認)



めざみの里観光物産館

飯豊めざみの里㈱

主要業務：道の駅いいで・めざみの里観光物産館の管理運営
所在地：松原1,898番地
設置時期：平成7年5月
資本金：5,000万円
町の出資割合：51%
従業員数：19名
20年度売上高：6億4,410万円
当期利益：158万円

開花状況は、促成栽培の植栽対応などにより、開園当初から通常料金での開園となり、比較的天候にも恵まれました。一方、入園者数では、団体客数の伸びはあったものの、ガソリン高騰などもあり個人入園者数が減となり、結果、6,200人の減となりました。

しかしながら、人件費などの経費節減を図り、当期純利益は444万円となりました。



どんでん平ゆり園

(5月21日開催の株主総会にて、平成20年度第8期営業および決算報告などを承認)

㈱どんでん平ゆり園

主要業務：「どんでん平ゆり園」施設の管理運営
所在地：菽生3,341番地
設置時期：平成14年1月
資本金：2,100万円
町の出資割合：89.3%
従業員数：0名
20年度売上高：5,498万円
当期利益：444万円

飯豊町役場

電話 0238-72-2111

FAX 72-3827

ホームページ www.town.iide.yamagata.jp

Eメール iide-info@town.iide.yamagata.jp



「あ～す」	☎72-3111	社会福祉協議会	☎72-3353	東部地区公民館	☎74-2447
町健康福祉課	☎86-2233	ひめさゆり荘	☎74-2011	西部地区公民館	☎75-2111
介護老人保健施設	☎86-2117	スポーツセンター	☎72-3086	中津川地区公民館	☎77-2020
国民健康保険診療所	☎72-2300	中部地区公民館	☎72-2126	飯豊駐在所	☎72-2245
附属中津川診療所	☎77-2330	白樺地区公民館	☎72-2242	中津川駐在所	☎77-2110

介護老人保健施設 リバーヒル長井職員募集

リバーヒル長井では職員の採用試験を実施します。

◆募集職種と必要な職種

①看護職員（看護師・准看護師）

②介護職員（介護福祉士）

◆採用人員／①、②とも若干名

◆採用形態／正職員。看護師は勤務時間応談

◆申込締切日／9月11日(金)

◆採用試験日時／9月25日(金) 9:00～

◆試験会場／リバーヒル長井(長井市)

◆試験内容／一般教養、論文、面接

◆提出書類／受験申込書(所定の用紙)、履歴書、資格または資格免許の写し、新卒者は成績証明書、卒業見込み証明書、資格取得見込み証明書

◆申込・問合せ先／介護老人保健施設リバーヒル長井事務室(長井市寺泉3525-1) ☎84-7575

日本赤十字社 職員募集のお知らせ

日本赤十字社では、職員の採用試験を実施します。

◆募集職種

一般事務職および看護師職

◆採用予定人員

一般事務職・看護師職ともに若干名

◆採用予定日／平成22年4月1日

◆申込方法／募集要項による詳細は、日本赤十字社山形県支部のホームページでご確認ください

<http://www.jrc-yamagata.com/>

◆申込締切

9月11日(金)(当日消印有効)

◆問合せ先／日本赤十字社山形県支部総務課(柿崎・岡崎)

☎023-641-1353

西置賜行政組合職員 採用試験のお知らせ

◆職種・採用予定人員／消防職 若干名

◆受験資格／長井市、小国町、白鷹町、飯豊町の居住者または当該地域に居住予定の方で、昭和56年4月2日以降に生まれ、高校卒(平成22年3月までに卒業見込みの方を含む)以上の学歴を有する方

◆受付期間／9月1日(火)～16日(水)

8:30～17:00

(土曜日、日曜日、休日を除く)

※受付最終日の日時必着

◆受付場所／西置賜行政組合事務局

(長井市平山4460 消防本部庁舎内)

◆試験日・試験会場

◇期日／10月18日(日)

◇会場／長井市勤労センター(長井市)

◆試験内容

◇一次試験／教養試験(初級行政)・作文試験・適性検査(筆記)

◇二次試験／人物試験・体力試験

◆採用予定日／平成22年4月1日

◆受験申込書の請求先／西置賜行政組合事務局、消防本部・消防署、消防署飯豊分署

◆申込・問合せ先／西置賜行政組合事務局 ☎0238-88-4336

平和祈念展示会・戦争体験 の労苦を語り継ぐ集い

太平洋戦争の写真展を行います。

◆日時／8月22日(土) 13:00～17:00

23日(日) 10:00～17:00

(14:00～17:00語り継ぐ集い)

24日(月) 10:00～12:00

◆場所／白樺地区公民館

◆料金／無料

◆問合せ先／軍人軍属恩給欠格者山形県連合事務所(舟山) ☎72-3535

「日本語教室」受講生募集

町では、入門レベル・初級レベルを学習内容とする日本語教室を開催します。どうぞご参加ください。

◆対象者／町内在住の外国人などで、4カ月間継続して受講できる方(国籍・母語は問いません)

◆受講日程

9月9日(水)～12月12日(土) 全27回
毎週水・土曜日(初級Ⅰ・初級Ⅱどちらのクラスも)

◆受講時間／19:15～21:00

◆場所／町民総合センター「あ～す」

◆受講料／3,000円(町外からの参加者については5,000円)

※ほかに教科書代として4,500円程度必要です。初回に一括納入のこと。途中でやめても返金はありません

◆申込方法／受講申込書に必要事項を記入し、下記の申し込み先まで提出ください(郵送可)

◆申込締切／8月29日(土)

◆申込・問合せ先／町民総合センター「あ～す」 ☎72-3111

新しい農業委員を紹介します



山内幸夫さん
(黒沢・農協選任)

「農業行政をしっかりと学び、町の農業振興に務めていきたいです」

戸籍の窓

(7月届け出分)

ご結婚おめでとうございます

住所 氏名

(椿 伊藤 晃 徳さん
川西町 須貝 さゆりさん

お誕生おめでとうございます

住所 氏名 ご両親

添川 伊藤 結心ちゃん (和雅 正子
萩生 味田 龍乃介くん (勝清 徳華
萩生 菊地 圭佑くん (僚 香奈子
黒沢 佐藤 瑠愛ちゃん (孝 博のぞみ
中 渡邊 心くん (智由 樹衣
萩生 渡部 心釉ちゃん (直由 人香里
小白川 原田 美来ちゃん (淳京 一子
高峰 鈴木 蓮くん (利一 しのぶ

心からおくやみ申し上げます

住所 氏名 年齢

添川 鎌田 すみさん 84
添川 上町 渡邊 久美子さん 83
添川 佐藤 吉平さん 89
黒沢 旭手塚 利夫さん 74
萩生 町上 鈴木 康彦さん 39
中 中北 舟山 ミヨさん 73
中 沖島 貫孝 助さん 91
椿 上野 井上 忠助さん 82
添川 佐藤 とめよさん 88

※この欄に掲載を望まない場合は届出の際にお申し出てください。

人の動き

7月分 () 内は対前月比

世帯数	2,401 (-5)	転入	3
人口	男 4,057 (-3)	転出	7
	女 4,305 (-3)	出生	8
計	8,362 (-6)	死亡	10

公立置賜総合病院からMRI装置に関するお知らせ

公立置賜総合病院では、MRI装置(磁気共鳴断層撮影装置)の老朽化に伴い、下記の日程で更新整備を行います。期間中、代替装置によるMRI検査を行います。一部対応困難な検査の場合、検査をお断りすることがあります。ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

- ◆作業期間/9月12日(土)~29日(火)
- ◆問合せ先/公立置賜総合病院放射線部 ☎0238-46-5000

ひとり親の自立のための研修相談会を開催します

- ◆対象/ひとり親(父親・母親)、そのほか関心のある方、関係者 各30名程度
- ◆期日/9月12日(土) 13:30~
- ◆内容/法律に関する研修と相談「女性に関する法律」
- ◆相談・助言/ひとり親のための支援策活用術(行政制度)
- ◆場所/米沢市「すこやかセンター」
- ◆受講料/無料
- ◆申込方法/FAXかEメールで下記まで申し込み
- ◆その他/託児を申し込まれる方は、お子さんの名前(フリガナをつけて)・年齢・性別、注意点などがあれば一緒にお知らせください。託児の申し込みは開催日の5日前までとなります
- ◆申込・問合せ先/NPO法人サポート唯(田中) ☎090-2366-8467 FAX023-646-0085 E-mail jun_minikan@yahoo.co.jp

めざみの里まつりフリーマーケット出展者募集

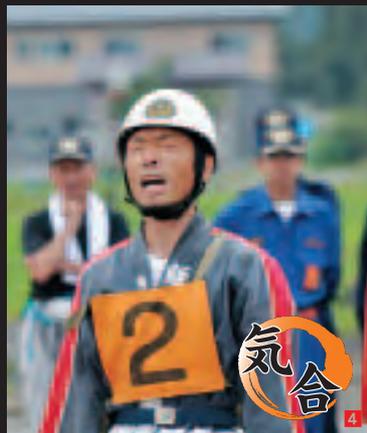
- 「ごみに出すのはもったいない!」を合言葉に個人・家族・グループでちょっとしたお店を出してみませんか?
- ◆対象者/町内に在住の方、もしくは学校・勤務地が町内にある方 ※小中学生は、保護者の同意書が必要
 - ◆開催日/9月5日(土)
 - ◆時間/10:00~16:00
 - ◆場所/町民総合センター「あ〜す」屋外会場(テント有り)
 - ◆出店区画/1区画(2m×3m)
 - ◆募集店数/4店舗(先着順)
 - ◆出店料/無料
 - ◆申込締切/8月26日(水)
 - ◆申込方法/下記まで電話で申し込み
 - ◆申込・問合せ先/役場住民税務課 生活環境室72-2111内線133

「西置賜の味講座」受講生募集

- テーマは地産地消の推進と伝統料理の習得と継承です。
- ◆募集定員/5名
 - ◆内容と日時
 - ①開講式・旬の野菜を食卓に生かそう 8月27日(木) 9:30~12:30
 - ②秋野菜を食卓に生かそう 11月6日(金) 9:30~12:30
 - ③米と大豆で健康料理 11月26日(木) 9:30~12:30
 - ◆会場/置賜総合支庁西庁舎(長井市)
 - ◆申込方法/下記まで電話で申し込み
 - ◆申込締切/8月20日(木)まで
 - ◆参加費/実費負担
 - ◆申込・問合せ先/役場産業振興課農業振興室 ☎72-2111内線262

◇「なぜ広報につづり穴がないのか」とお問い合せをいただきますので、この場を借りて説明申し上げます。▽四月から紙面をリニューアルし、表紙には、町内の親子の方しモデルになっていただいています。また、印象的な写真を大きく当てる、町民の皆さんの活躍や町の魅力が伝わるようデザイン性の高い紙面づくりに努めています。つづり穴を開けてしまうと、掲載された方の顔や体に穴があいてしまったら、レイアウトの効果損なわれる結果となります。そのような理由で穴はあけていません。どうぞご理解とご協力をお願いします。(横山)





消防団員完全燃焼



2009.7.5

飯豊町消防操法大会

操法技術の習得は火災現場に直結

七月五日、町民総合センター「あす」駐車場を会場に、飯豊町消防操法大会が開かれ、小型ポンプの部が六チーム、小型ポンプ積載車の部が四チーム出場し、操法技術を競い合った。

大会の目的は、消防活動を円滑に行えるよう操法技術の向上と団員の士気を高めること。本大会で求められる技術の習得は、実際の火災現場で生きることになる。

出場チームは、大会に向け、消防飯豊分署職員からの指導を受けながら技術を研鑽してきた。練習時間は、仕事前の早朝や仕事帰りの夜に限られ、寝食を惜しまず練習に励んできた。

大会当日、天気には恵まれたものの、夏の暑さが選手を襲う。それでも選手たちは練習の成果を出し切ることを考え、競技に臨んだ。玉の汗を流しながら、一糸乱れない連携と迅速さで、どの班も見事な操法技術を披露し、会場を沸かせた。

レベルの高い本町の操法技術

大会は僅差の争いとなり「素晴らしい操法ばかりで、審査はとても困難なものでありました」と審査委員長を務めた佐藤享飯豊分署長を言わしめるほどであった。

見事、小型ポンプの部で優勝・準優勝となった二チームと小型ポンプ積載車の優勝チームは、七月十一日、西置賜防災センター（長井市）で開催された消防操法大会西置賜支部大会に出場。そのうち、小型ポンプ積載車の部に出場した第四分団第一部

優勝インタビュー

WINNER'S INTERVIEW

小型ポンプの部 第3分団第4部第1班



指揮者／田辺寿之さん 3番員／浅野善浩さん
1番員／浅野克幸さん 補助員／鈴木幸則さん
2番員／田辺正彦さん

喜びの声

班として5大会連続優勝を果たす

班員・部員を問わず全員が一丸となって大会に臨むことができました。みんなで協力して勝ち取った優勝だと思います。うちの班の念願だった本大会5連続優勝を果たすことができたととてもうれしいです。先輩方の偉大な功績を「重責」ではなく「伝統の重み」として練習に生かすことができ、成果として表れたのだと思います。

(田辺寿之さん・写真左端)

小型ポンプ積載車の部 第4分団第1部第1班



指揮者／工島昇さん 3番員／井上雅俊さん
1番員／鈴木利一さん 4番員／長沼央さん
2番員／尾形弘嗣さん 補助員／竹田直人さん

喜びの声

アクシデントを乗り越えてつかんだ優勝

われわれ選手だけではなく、班員・団員のみならず力が合わせてくれたことが一番の勝因だと思います。仲間や家族の応援の音が、力と勇気を与えてくれました。メンバーのけがやポンプの不具合などのアクシデントもありましたが、みんなのがんばりで乗り越えることができました。

(工島昇さん・写真前列右端)

Photograph

1 正確な放水により火点（標的）に見事命中。標的が倒れるたびに、会場から大きな拍手が選手たちへ送られた 2 1番員から3番員へ「放水始め！」の伝達がなされると、小型ポンプが勢いよく走り出す。班員同士の息の合った連携が大会の勝敗を決める 3 真剣な眼差しで操法に臨む選手。今日までの練習の成果を無駄にたくないという懸命な思いが見る者にも十分に伝わってきた 4 操法を一通り披露し終え、点検報告に力いっぱい答える選手。練習の成果を出し切った万感の思いが、その大きな声に込められていた 5 的確な機械操作で速やかな放水を実現。エンジン音と水しぶきを上げるポンプもまた選手の一人と言える 6 操法大会は迅速さと正確さが求められる奥の深い競技である。班員の連携こそが速さを生む鍵となる



◆飯豊町消防操法大会結果

【小型ポンプの部】

優勝／第3分団第4部第1班(東山)
準優勝／第4分団第2部第1班(向原、向原北)
第3位／第1分団第1部第1班(高野・寺分、町西)

【小型ポンプ積載車の部】

優勝／第4分団第1部第1班(八幡、町中、落合)
準優勝／第1分団第2部第1班(中ノ目南、中ノ目北)

◆消防操法大会西置賜支部大会

【小型ポンプ積載車の部】

優勝／第4分団第1部第1班

第一班が優勝を果たし、本町の操法技術のレベルの高さを裏付ける結果となった。

【特別賞作品】



静 寂

(撮影場所／中津川地内)

写真は、平成20年度に開催されました「未来につなぐいいでフォトコンテスト」で入賞された作品です。

撮影者

高野健男さん(神奈川県相模原市)

美しい自然が残る、私の大好きな飯豊町のコンテストで「特別賞」を頂戴して大変光栄に存じます。誠にありがとうございました。毎年雪が消え新緑を待ちわびて白川ダムでの夜明けを撮りに参ります。昨年は、3回程撮りに出かけましたが、その中の1枚です。今年は天候も十分考慮に入れて白川ダムの良さを出せるように撮りたいと思います。

写真家 佐藤秀明先生の講評

春、白川湖の朝は、このような表情を見せてくれます。小さな鳥の動きが、静けさを強調してくれました。毎朝繰り返される光景を静かに見つめたからこそこの作品です。



【お詫びと訂正】7月9日号で紹介しました作品『飯豊の春景』の撮影場所は、「黒沢地内」の誤りでした。訂正し、お詫び申し上げます。



この広報紙は再生紙を使用し、大豆油インキで印刷しています。